

科学コミュニケーションの規範について

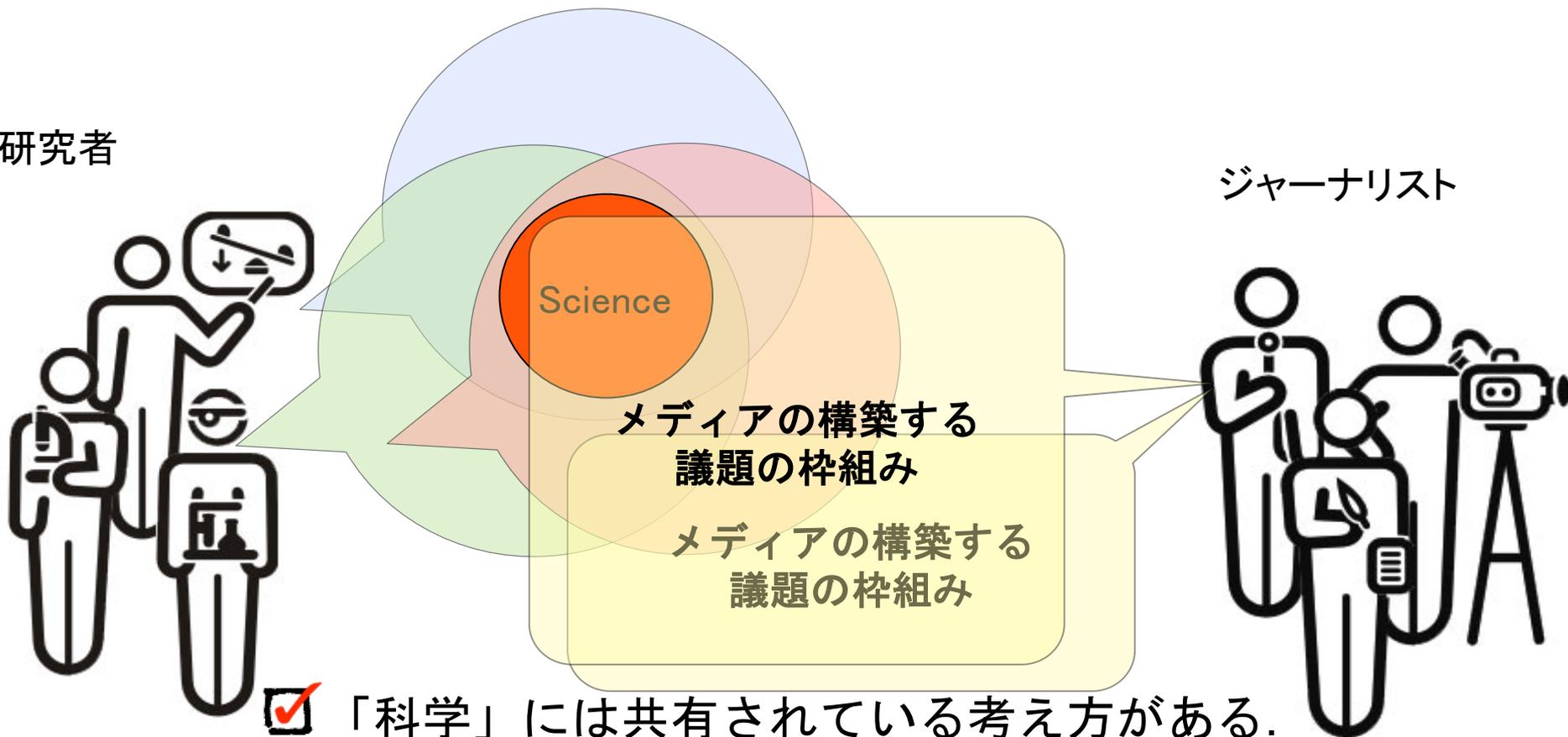
-媒介行動規範の作成と今後の課題-

一般社団法人 サイエンス・メディア・センター
菊地 乃依瑠

サイエンス・メディア・センターとは？

研究者

ジャーナリスト



- 「科学」には共有されている考え方がある.
- 「ジャーナリズム」は科学と独立しなければならない.

本日の発表の要点

- 科学コミュニケーション(SC)の規範は実践を分析することからのみ可能である
→ トップダウン型の作成はできない
- 規範を作成することで個々のSC活動の暗黙知を明示知化できる
→ 明示知化することによるSCにおける相乗効果は大きい
- 一般的な行動規範(例えば、日本学術会議『科学者の行動規範』)のような形にするのは困難(今のところ)
→ SCの多様性、職業として確立していないという点が原因

媒介行動規範作成のあらまし

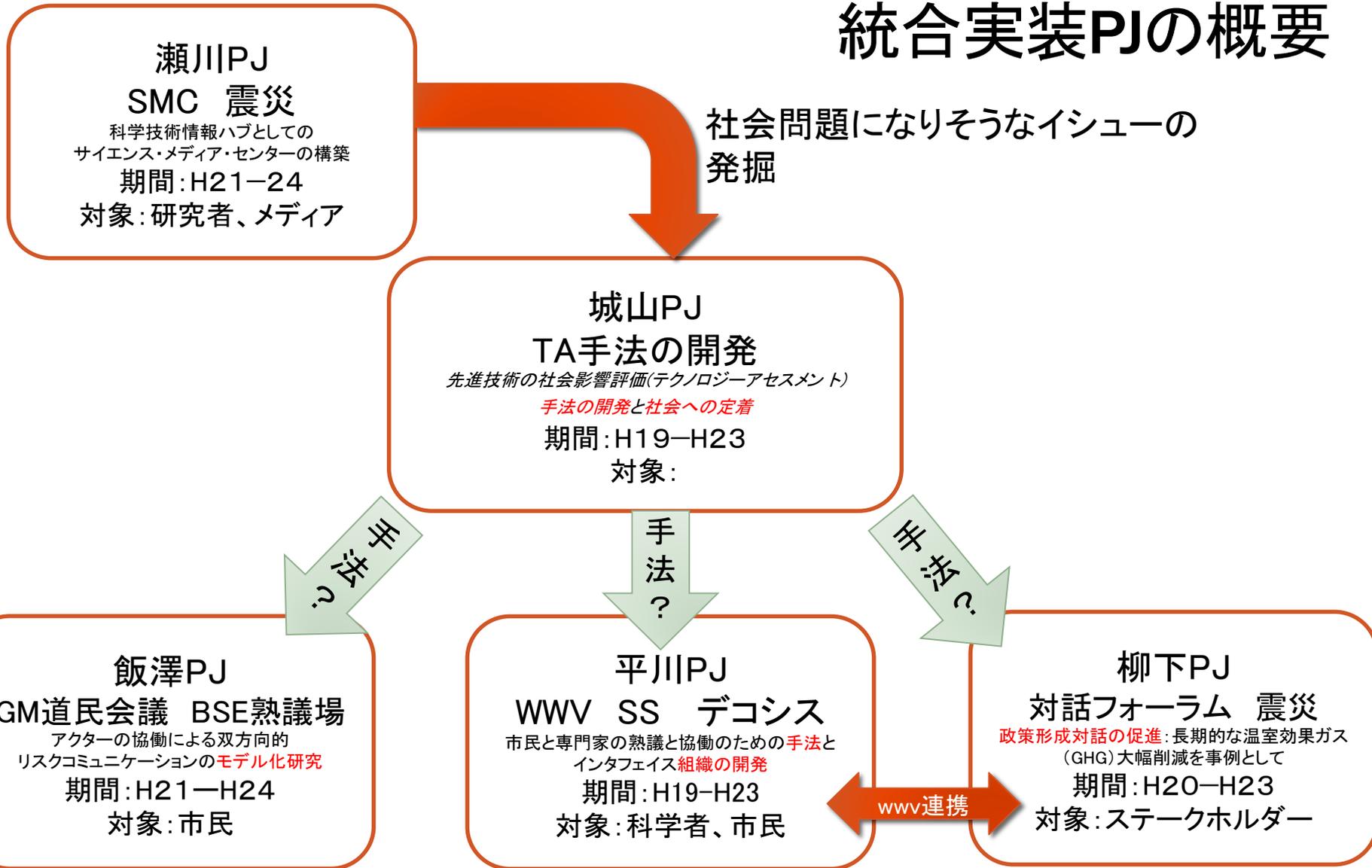
- 統合実装PJ:これまで行われてきたSCを統合して社会実装
→SMCはそのハブの役割

これまで担っていない機能のハブになる

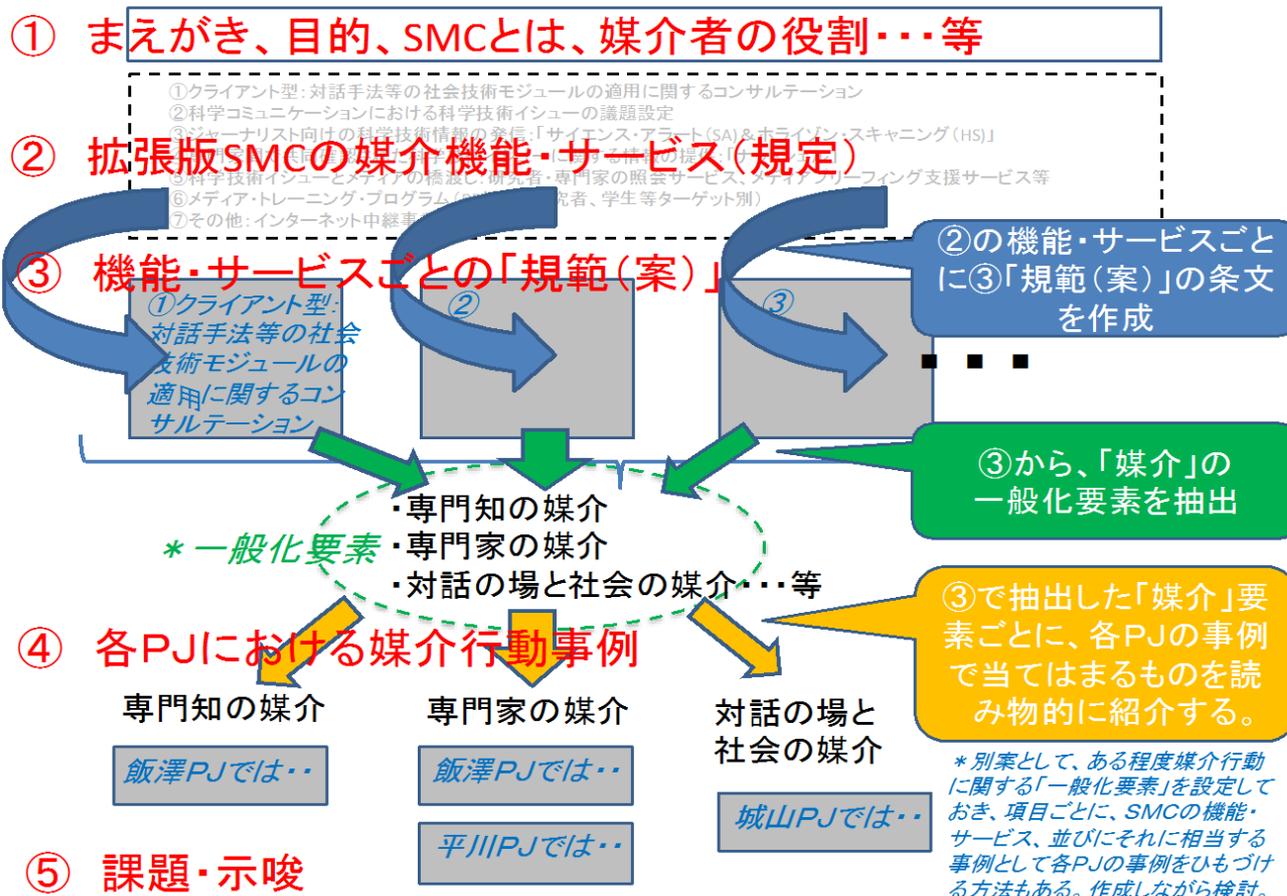


それぞれの活動で培った規範の把握が必要

統合実装PJの概要



媒介行動規範の作成手順(1)

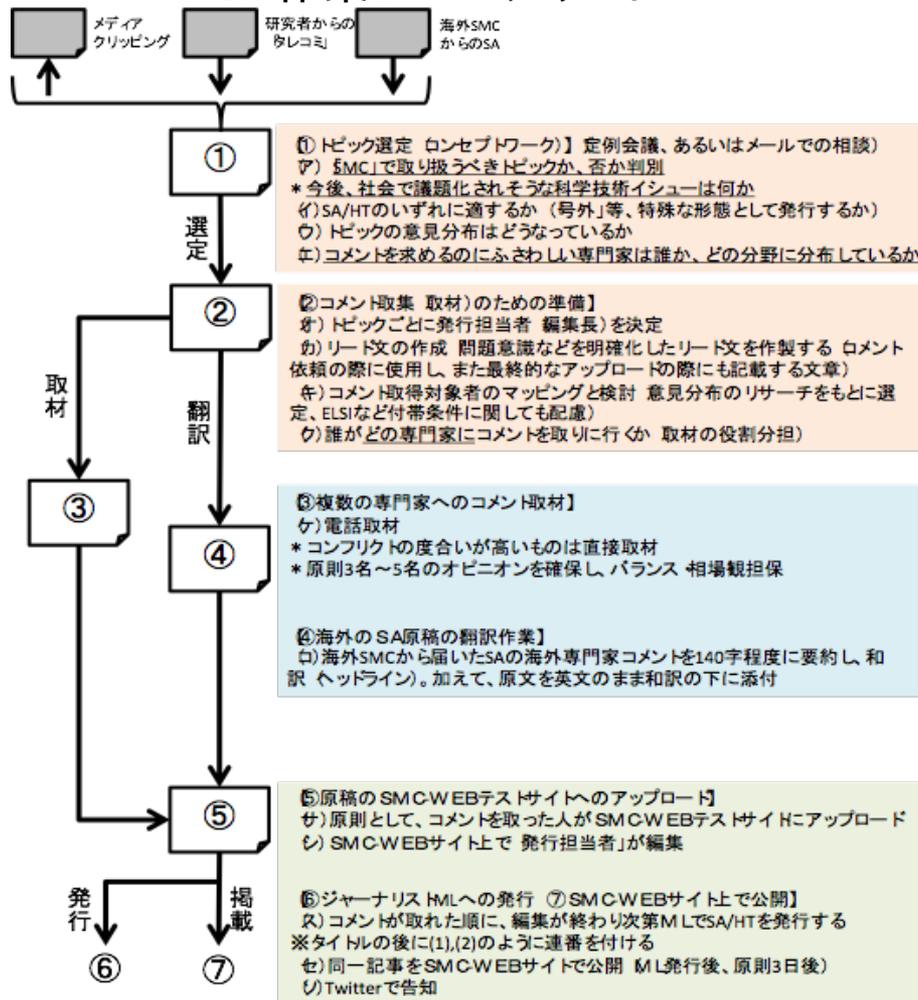


媒介行動規範の作成過程(2)

要するに、
繰り返しインタビューした結果を
まとめました

統合実装PJにおける活用(1)

SA作業フローチャート



規範項目

エ)コメントを求めるのにふさわしい専門家は誰か、どの分野に分布しているか

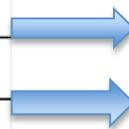
独立不偏性	意思決定との適切な距離	
品質	科学的信頼性	
包括性	複数の視点の考慮	
ネットワーク	情報収集	

統合実装PJにおける活用(2)

規範項目

エ)コメントを求めるのにふさわしい専門家は誰か
どの分野に分布しているか

独立不偏性	意思決定との適切な距離	
品質	科学的信頼性	
包括性	複数の視点の考慮	
ネットワーク	情報収集	



各PJからのジレンマ事例(ex. 鈴木,城山PJ)

事例名称	複数の科学者へのレビュー依頼
事例概要	科学的信頼性を担保するために複数の専門家へレビュー依頼したが、協力を得られないことも多かった
事象・経過・背景	複数の専門家にレビューを依頼することから科学的信頼性を担保しようとしたが、協力を得られず、複合的な問題や医療分野では難しいと感じた。
原因	複合的な問題に関しては、個々の分野について専門家はコメントしづらく、関係性を築くことが原因。
知識化	医療分野の専門家にコメントを依頼する際には、科学的信頼性を担保するために、複数の専門家へのレビュー依頼を行う必要がある。
登録の動機	複数の専門家へのレビュー依頼という作業がSAの根幹である複数論併記と大きく重なる部分があるため。
データ制作者	菊地乃依瑠

SCにおける規範、その特殊性

- SCの対象、目的、関わる期間、要点が個々の活動によってバラバラ
 - 一般的なCode of Conduct の作成プロセスを辿れない
- Science Communicatorという職業集団が存在しない
 - 辛うじて研究者+未来館のSCぐらい?
 - 規範の功利的な側面が機能しづらい

今後の課題と展望

- SCを計画・評価する際の軸になる
- SCをマニュアル化する際の下支えになる
- 憲章のような文言の作成は可能だが、
もう1ステップ必要

最後に残る問題

- 規範は誰が作るのか？

科学コミュニケーションセンター？

STS学会？

日本科学未来館？